
カナリアの涙

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カナリアの涙

【Nコード】

N5080M

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

うーん。非公開設定にするか書き直します。

オレはどうしたらいいのやら。ある朝、おかんが朝ごはんに「

「を出したのだ。味噌汁つきで。オレは当然怒った。激怒した。「なんで やねん！」と怒鳴った。みなさんもおわかりだろう。「

「はとにかく辛いのである。しかもすっぱい。おまけに、大きいものと一キロ近くある。しかもトゲがすごい。しかも、くさい。一週間くらい洗ってない靴下のおいがする。

「オレは なんて食べねえよ！」

と、おかにぴしりと言ってやった。

すると、おかんは悲しそうな顔をして、「実はあなた本当はうちの子じゃないのよ」と言う。

「え？ え？ え？」

おかんが、うつつうつと泣き始めた。

新聞を開いていた親父まで「うつ。今まで内緒にしていたすまん。うつつう」と泣き始める。

「そんなあ。そんなあ。そんなこと言わないでよう」

「うつつう。うつつう」

「うつつう。うつつうつつう」

オレはもうどうしていいのやら、テーブルをひっくり返した。「たけちゃん！どこ行くの！」「うるせえ！」そして、階段を上り、屋上へ出た。

ヘリコプターに乗り込み、エンジンをかけた。

「くそ！ くそ！ くそ！」

飛び立った。

その夜、新しい内閣総理大臣に新田昭雄氏が就任した。若干49歳である。

オレとたけこは、それをニュースで眺めながらキスをした。ソファに押し倒したい。

「いいだろ。なあ。たけこ」

「ああん。だめよう。だめ」

「だめか」

オレはたけこをひっくり返した。「たけちゃん！どこ行くの！」

「うるせえ！」

オレは、階段を上り、屋上へ出た。

ヘリコプターに乗り込み、エンジンをかけた。

「くそ！ くそ！ くそ！」

順調に飛んでいたが、山下町の上あたりにきたところでついに墜落してしまった。

「うわあああああああああ」

墜落の原因は不明である。何ということだ。残念。

野球賭博がからんでないか少し心配である。まあ大丈夫だとは思
うが、一応念のために、電話を試みよう。確認してみなくては。
ぶるるるるるる。がちや。

「はい。もしもし。マンモス研究所ですけど」

「あの。明日は晴れですか。雨ですか」

「マンモスです」

オレはガッツポーズをとった。

「よっしゃあああああああ」

その瞬間撃たれた。油断していた。

「うぎゃあああああああ」

オレは倒れた。周りのみんなが拍手してる。いつの間にかアカデ

ミー賞の受賞会場だ。

オレは倒れているので、挨拶ができない。

「くそ。くやしいなあ」

葬儀は来週します。

さて。そんなことを経まして、数年後、当時の内閣総理大臣、山
田総一郎がある政策を打ち出しました。対アメリカ対策。

ずばり、「

「政策です。この「

「政策は画

期的です。」「政策のことがよくわからないという読者のために少し説明します。メモ帳をご用意ください。

いや！

やはりやめます。どうしても知りたい人はお金ください。少なくともいいです。十円でも。

オレたちはひまじゃないんだ！！！

オレはジャンパーを着て原付にまたがる。牛井屋へ行くんだ。牛が食べたいんだ。並盛じゃないぜ大盛りだぜサラダもつけるんだ。前から山本先生が歩いてくる。オレの担任の先生だ。むっちゃボインー！！

そして去っていった。

見とれていたせいで、トラックにはねられ、吹き飛んだ。

気づけば夜空を眺めてる。体じゅうが痛い。ああ。満月がきれいだ。すぐきれいだ。本当か。そうだと。わかつてるだろう。わかつちやいるけどやめられない。やめられないこの旨さ。くせになるこの旨さ。

やみつきトンコツラーメン！！！！

イエーイー！！！！

よっしゃ。よっしゃ。よっしゃ。

わっしょい。わっしょい。

やったね。だから、そうだったのだ。うそこけ。

だいたいお前はなあ、さて、ここで、みなさんに問題です。キーワードは、13、8、42のいずれかです。

じゃんじゃん、第一問！

「牛は寝ましたか？起きましたか？」

よしおくんが手を挙げた。

「はい。よしおくん。どうぞ」

「はい。答えは、牛はインド人だったから太ってバスから降りた、が、正解です」

「そのとおり！よくわかったね。賞金二億円！いや三億円！」

「ふざけるな！」

「ふざけるもん！」

「じゃー殺す！」

じゃあ、まったねー。バイバーイ。明日は、きんたまばあさんクラッシュだよーみんなー！

ボンボンも、マダムも、きんたまクラッシュ。フラッシュ。ムラッシュ。

ムラッシュ！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5080m/>

カナリアの涙

2010年10月10日00時15分発行